

重点項目（3ヵ年計画 2022～2024年度）

1. 2020年度の事故事件及び2021年度の対応を踏まえた泉苑再編成の年とする
2. 利用者の権利尊重を最優先に、法令を遵守した健全な施設運営を行っている
3. 職員一人一人が力をつけ、その力を発揮できる組織になっている
4. 「困りそうなら泉苑に相談。」地域の高齢者やご家族の相談に応えられる施設

1. 2020年度の事故事件及び2021年度の対応を踏まえた泉苑再編成の年とする

- (1) 特養利用定員の自粛（特養110名→90名・短期入所15名→10名）
- (2) ゆとりある生活空間に向け、環境を整備する（12名～15名単位のチームになるような居室配置）
- (3) 介護員の居室担当制を確立。近い感覚・なじみの関係を感じていただきながら細やかに支援する
- (4) 居心地よい環境への整備の一端として内装の改修を進める。
- (5) 老朽化した入浴設備の更新及び入浴業務見直しによりフロア完結の入浴を推進する
- (6) 事故の再発防止に向けた取り込み事故を50%削減する（1事故：検証→対策→実施→確認）

2. 利用者の権利尊重を最優先に、法令を遵守した健全な施設運営を行っている

- (1) その方らしい暮らしの実現に向け、ケアプラン立案への本人・家族の参画を進める。
- (2) 前年度の感染対応の経験を活かし、感染対策のBCP・対応マニュアルを策定する。
- (3) 法人版倫理綱領に基づく倫理研修を行い、利用者の権利尊重を大切に出来る組織を作る。
- (4) 介護される方の気持ちを考える研修を行い、気持ちよく利用者が生活できる施設にする。
- (5) スピーディーな入所に向け、特養待機者への先行訪問調査を進める。（ストック1名）
- (6) 防災設備の図示化・災害発生時の初動対応内容明文化により、災害に対応出来る力をつける。
- (7) 支出削減のため、固定費の現状を確認し、コストダウンを検討
- (8) 生活状況を外部にお伝えできるよう、インスタグラム・フェイスブック等SNS活動を再開する。

3. 職員一人一人が力をつけ、その力を発揮できる組織になっている

- (1) 研修に動画等の映像資料を活用し、時間帯の制約なく学習効果の高い受講が出来るようにする。
- (2) 面接等を活用し、職員一人一人が自分の将来イメージを描き、そこに進んでいける育成を行う。
- (3) ケアカルテ記録入力内容について再整理を行う。iPhoneも活用し記録入力の効率化を進める
- (4) 特養での介護機器の使用の標準化を進める。

4. 「困りそうなら泉苑に相談。」地域の高齢者やご家族の相談に応えられる施設

- (1) 複合的課題を抱えた事例を経営会議で共有し、泉苑全体で地域の現状の理解を進める。
- (2) 多目的ホールの地域開放を継続する。
- (3) ボランティア受け入れルールを再構築し、新たな動きとして導入を進める。  
また、コロナ対応下でも協力いただける遠隔・オンラインでのボランティア活動を検討する。
- (5) むさこいまつりを再開する。・武蔵台連絡会を活性化させ、しらとりとの連携を進める。
- (6) コロナ禍の中でも安全に運営できるいずみ食堂の対応方法を検討、再開を目指す
- (7) 次なる食の展開に向け、予防事業・地域活動等での食のニーズの実態調査実施
- (8) むさこいまつりの再開・武蔵台連絡会を活性化させ、しらとりとの協力体制を強化する。
- (10) 近隣学校等との交流事業（職場体験・体験ボランティア等）を再開させる。